

Trends in Psychiatry

Theme

書籍

『家族・援助者のための ギャンブル問題解決の処方箋 —CRAFTを使った効果的な援助法—』



書籍紹介

『家族・援助者のための
ギャンブル問題解決の処方箋
—CRAFTを使った効果的な援助法—』
著者: 吉田 精次
発行: 金剛出版 (2016年)

ギャンブル問題により繰り返される借金にその場しのぎの嘘やごまかし——絶望感に打ちひしがれた家族もまた小言、懇願、脅し、借金の肩代わりといった悪循環に陥っている。硬直化した家族関係を変容する効果的な家族援助プログラム「CRAFT(コミュニティ強化と家族訓練)」の紹介を中心に、借金返済計画の注意点から回復へ向かうための金銭管理や暇対策まで、ギャンブル問題解決への具体的な道筋がわかる実践的で情報満載の1冊。

先生が医師の道を志されたきっかけをお聞かせください。

私の実家は和菓子屋をしており、自宅が製造場を兼ねていました。人間関係の大変さを間近にみて育ちましたので、会社で上司の言うことを聞いて仕事するのは自分には向いていないと思い、個人の裁量で仕事ができる医師の道を志しました。ただ、血をみるのが嫌で注射も嫌い。精神科を選択することは高校生のと

きから決めていました。その思いはブレませんでしたが、私は試験がうまくいかないタイプで、大学は1浪したうえに留年もしています。精神科を志望していたくせに、生意気だった私は人間を病氣として捉えるような診かたに抵抗し、実習に参加しなかったのです。その実習が卒業に必須だったことはあとで知りましたので、本当に愚かですね(笑)。学生時代はジャズ喫茶に入り浸って学校にはあまり行かない、いわゆる落ちこぼれでした。大学医局講座制にも反発

していたため、卒業後は大学の医局には入らず、卒業の前年に徳島県板野郡に開設された藍里病院に就職しました。

実際に医師になり、どのような思いで診療に臨まれましたか。

私は、精神疾患が身体疾患よりも差別され、精神疾患を患っていることを隠さなければ生きていけないような社会に憤りを感じていました。